

今後の花育推進について

R5.3.28 令和4年度新潟市花育推進委員会資料
新潟市農林水産部食と花の推進課

新潟市の花や花育について

令和4年度第49回市政世論調査結果

新潟市が花の生産が盛んであることを知っていましたか。

- 知っていた 37.5%
- なんとなく知っていた 38.1%
- 知らなかった 23.8%
- 不明・無回答 0.6%



「いくとぴあ食花」のガーデンや「食育・花育センター」に行ったことがあるか。

- よく行く 4.8%
- 行ったことがある 59.6%
- 知っているが行ったことはない 25.2%
- 知らない 9.5%
- 不明・無回答 0.9%

花や植物に触れることで、あなたや周りの人にどのような効果が期待できると思いますか（〇はいくつでも）

- 季節を感じる 80.5%
- リラックス効果 69.1%
- ストレス軽減 40.2%
- 元気になる 31.9%
- 周りとのコミュニケーション 16.2%
- 命の大切さを学ぶ 11.4%
- 地域の人との交流 7.6%
- 脳の認知機能の改善 6.9%
- その他 1.3% 不明・無回答 2.2%

5

新潟市らしい「花育」として市や「いくとぴあ食花」に期待する取り組み（〇はいくつでも）

- まちを花や緑で彩る (49.8%)
- 花を觀賞できる場の整備 (38.8%)
- 花や植物に関するイベントの開催 (27.1%)
- 学校教育に取り入れる (23.4%)
- 花などを変えるマルシェ開催 (23.3%)
- 花に関する情報発信 (23.1%)
- 食とコラボした企画 (20.7%)
- 講座、ワークショップの充実 (13.6%)
- 地域コミュニティでの寄せ植え (12.0%)
- 芸術とコラボした企画 (11.7%)
- 花にかかわる人材育成・支援 (9.7%)
- その他 (3.3%) ・不明・無回答 (5.5%)

6

新潟市に対する誇りや愛着について（24項目中）

【令和3年度市政世論調査結果】

●「ある」と「ある程度ある」を合わせた割合（上位10項目）

①農産物（86.8%）、②海産物（77.8%）、③酒（73.9%）、④料理（73.6%）、⑤日本海（72.5%）、⑥田園（69.6%）、⑦まつり・イベント（60.6%）、⑧河川（59.8%）、⑨花・花木（57.9%）、⑩潟（46.7%）

⇒「花・花木」に誇りや愛着を感じているのは約6割

- 地区別では秋葉区（63.8%）で最も高い。
- 性別では、男性（50.8%）と比べて女性（64.9%）で割合が高い。
- 年齢別では、50歳以上で割合が高く、6割を超える。

7

新潟市花育推進計画について

●「新潟市花育推進計画」【計画期間：平成20年度～平成26年度】

（平成20年10月策定）

豊かな自然・田園や花の生産地と都市が近接している利点を生かし、「食と花の政令市にいがた」として、食育と並び「花育」を推進するため策定

●「新潟市第2次花育推進計画」【計画期間：平成27年度～令和4年度】

（平成27年4月策定）

- 平成23年「食育・花育センター」オープン
 - 平成26年「食と花の交流センター」オープン
 - 「新潟市花育の日」、「花育月間」を設け、生産者・流通・小売業界と連携して花や緑を取り入れた生活の普及推進
- 市民の自主的な活動の場となる
花育の拠点施設を活用した花育の推進

8

新潟市の花育推進



花育マスター
の花育活動

食育・花育
センターの
花育事業

園・学校で
の花育活動



にいがた 2 km 食花マルシェ

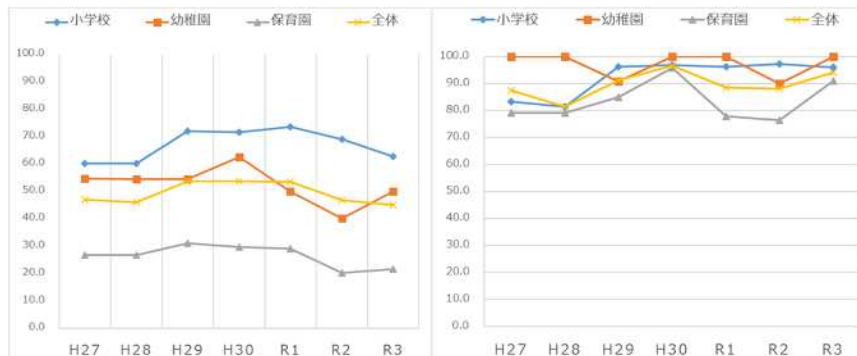


萬代橋チューリップフェスティバル

保育園、幼稚園、小学校アンケート結果

地域と連携した花育活動実施率

花育活動実施率



アンケート結果から

- コロナ禍ではあるが、花育活動の実施率は回復してきている
- 花育活動の課題「ノウハウがない」は保育園・幼稚園が多い
- 「花育マスターを活用したい」は保育園・幼稚園が多い
- 萬代橋チューリップフェスティバルへの参加が58%と多い
- ➔各区の数校・園に花育マスターを派遣して秋～冬～春にかけて花を楽しむ寄せ植えのノウハウと苗を提供（新規）
- ➔園・学校が自主的に継続できる内容として、自走を目指す

食育・花育センターの花育事業

- 団体体験プログラムの実施団体数
- 花育関連講座の受講者数
- ⇒ コロナ禍で共に低迷
- ➔withコロナ、市民ニーズに対応した花育の取り組みが必要
- 交流イベント（8大イベント）に限らず、休日に子どもや親子等が予約なしで気軽に体験できる花育体験の充実【回数増（年間48回以上）と内容の充実】
- ⇒ 花育活動のすそ野を広げる

新潟市の花育で目指す姿
令和3年度第1回花育推進委員会より

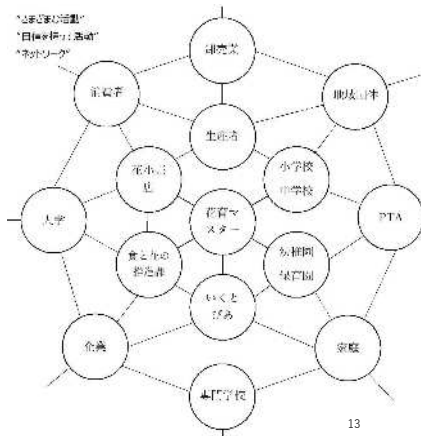
【花育により目指す未来の新潟市】

「緑豊かで、農業が産業として確立した、強い未来」

そのために、**人材育成**(人材を次につなげる) <<手段>>

- **さまざまな主体が、それぞれ自信を持って活動しながら、隣と手をつなぐことにより、点と点がつながって広がり、大きくなる**
⇒ **新潟市らしい花育**
- **生産サイド、消費サイドを育てながら、小さなものをどんどん作り上げ、大きくしていく**
⇒ **新しい活動ができる**

【イメージ図】



今後の花育推進について

令和3年度第2回花育推進委員会より

【目指す姿】

市の強みである花を市民が知り、楽しみ、交流することを通して、ふるさとへの誇りや愛着が形成され、花き産業が持続可能な強い産業になる

【両輪での推進】

⇒消費者 [教育面]

- 花育マスターなど多様な主体が活動し、新潟市らしい花育が多方面で広がる

⇒生産者 [経済面]

- 市の花が認知されてファンが増え、売れることにより産業が振興する

花育推進の位置付け

● **新潟市総合計画2030**

(計画期間：令和5年度～令和12年度)

● **「新潟市農業構想2023-2030」農業に関する分野別計画**

(計画期間：令和5年度～令和12年度)

本市の食料、農業及び農村に関する基本計画

● **花育推進**

新潟市農業構想2023-2030 (令和5年4月策定)

将来像

「**食と花の都** ～都市と田園の調和を活かした持続可能な農業の実現」

基本方針2 農業を活かしたまちづくり

(2) 食と農への理解促進とシビックプライドの醸成

施策18 食育・花育の推進

「3 花の産地としての花育の推進」

花の産地であることの強みを活かし、日常生活の中で花や緑を育むことを通じて、心身の健康づくりや、花のある暮らしづくり、地域コミュニティを形成するとともに、需要の拡大につなげ、本市の花き産業の発展を目指します。

花の産地としての花育の推進（新潟市農業構想）

- まちづくりや公共施設に花や緑を活用し、「花のまち」の魅力を内外に発信します。→G7サミットでの「花のまち」PR
- 将来を担う児童や生徒をはじめ幅広い世代に向けて、地域や学校での身近な花育活動を推進し、日常生活における花の活用を図ります。→園・学校での花育活動へのノウハウの提供
- 食育・花育センターを拠点に、新潟の花の展示や紹介、季節に応じた講座やイベントを開催します。→花育体験の回数増
- 4月19日、10月19日を「新潟市花育の日」、4月、10月を「花育月間」として花育の普及啓発に取り組みます。→継続

17

令和5年度の取り組み

- G7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議（5/11～13）にあわせて新潟の玄関口を花で彩り「花のまち」の魅力を内外に発信
- 新潟駅南口→市民参加も取り入れたG7ステーションガーデン
→G7終了後も市民と育むコミュニティガーデンを目指す
- 新潟空港→水の都をイメージした花と緑の装飾

18

花育推進の歯車



19

今後とも、ご指導よろしくお願ひいたします



ありがとうございました

20